

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173200559		
法人名	株式会社 彩香らんど		
事業所名	グループホーム田舎の家		
所在地	埼玉県比企郡小川町青山201-1		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は緑に囲まれた静かな環境にあります。天候の良い日には玄関先や花壇で利用者様と職員で穏やかに過ごし季節感を感じて頂いております。コロナ禍の面会制限も徐々に緩和されていき、利用者様のご家族様との面会時に一緒に庭いじり等もしていただき、ご家族様と協力しながら利用者様にとって良い環境で過ごせるようにと努めております。グループホームの家庭的な雰囲気の中で利用者様一人ひとりの残存機能をしっかりと把握し、役割を持った生活を送れるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「静かに・ゆっくり・穏やかに」の理念を基に、利用者に対して積極的にアプローチを行うも、職員が既成概念で考えたり、ケアの押し付けにならないように努め、話を最後まで聴くことで利用者のペースに合わせ、できることはやっていたくなど、利用者本位の支援が行われている。
 ・運営推進会議は、書面での開催が継続されているが、事業所と利用者の状況や身体拘束廃止委員会、及び研修の状況などが報告され、メンバーからの情報や意見は運営に活かされている。
 ・目標達成計画については、面会などが制限されていた間は、SNSで利用者の様子を発信するなど、馴染みの関係が切れないように努められ、制限が緩和されたことにより、面会や外出の範囲が広がり始めたこと、火災と水害それぞれの訓練が行われ、実際に避難するなどの経験を積み重ねられていることから、目標の達成が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を皆が見えるところに掲げ理念を共有し実施に努めている。	「静かに・ゆっくり・穏やかに」の理念を基に、利用者に対して積極的にアプローチを行うも、職員が既成概念で考えたり、ケアの押し付けにならないように努め、話を最後まで聴くことで利用者のペースに合わせ、できることはやっていただくなど、利用者本位の支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり積極的な交流は行っていない。散歩の際などにご近所の方と挨拶をする程度となっている。	コロナ禍で、地域との交流はまだ制限されているが、散歩や花をいただいたり、畑いじりなどを通して近隣の方々とのつきあいは継続されている。オレンジカフェなどの地域行事への参加やボランティアの受け入れはまだできないが、今後再開することが検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェも無くなり地域に向けての認知症の理解や支援方法を発信する場も無く活かす事は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在も対面での実施ではなく書面送付でのやり取りになっている。その中でサービス状況を報告し、質疑応答を返送してもらう形になっているがサービスに関する意見は現状出していない。	感染防止のため書面での開催が継続されているが、事業所と利用者の状況や身体拘束廃止委員会、及び研修の状況などが報告され、運営推進会議のメンバーからの情報や意見は、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の町担当の方以外にも生活保護担当、施設の空き情報、クラスター等の事故発生時に関係機関に報告を行い、対応についての助言等を頂いている。	クラスター発生時には、行政はじめ関係機関に報告や相談が行われ、指示やアドバイスをいただいた。また、生活保護利用者についての報告や相談も各担当課と必要に応じて行われ、適切に機能する協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、3カ月に一度研修やアンケートを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が3カ月に1回開催され、現在、特にスピーチロックをなくすことを主目的とし、自分の目から見てどうか、他の職員から見てどうかの職員アンケートを実施し、それをケース事例とした研修が行われ、身体拘束を必要としない支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、研修やアンケートを実施し虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もいるが、職員全員の理解には至っておらず活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ理解と納得をしていただけるよう丁寧に行っている。契約の前段階から疑問や不安が無いかの聞き取りも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にアンケートを行い結果を施設内に提示している。面会緩和に伴い、来所時にご意見を聞いたりLINE連携を行い気軽に相談や要望を伝えられるようにしている。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族とは面会の緩和に伴い来訪時に意見や要望を汲み取り、日々の支援に反映されている。面会制限の折も、タブレットを使用して各個人の写真を送るなどで、コミュニケーションを深めることに努められてきた。	面会の緩和が行われ、家族と触れ合う機会が増えていくと見受けられます。面会制限中もコミュニケーションを深めてもらいました。今後も、家族の目線や思いへの気配りに期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて意見や提案を行える場を設けている。事前アンケートも行い多くの意見が出るようにしている。	月1回の職員会議は、会議の前に職員からアンケートを取り、テーマを絞らんだり、話の苦手な人の意見も反映できる会議となっている。また、日頃も話し易く、意見やアイデアなども受け止めてもらえることが職員のモチベーション向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう資格を有する者や役職者には手当がつくようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修では職員が講師を務めお互いの教養を高められるようにしている。また社外研修がある際には提示し参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みは出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からご本人、ご家族様から要望等を聞き取り入所後も全職員でアセスメントを行い、共有してご本人が生活しやすい環境を作り構築していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から不安や要望を聴きとるように努めており、相談しやすい関係づくりを行えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を踏まえ入所前情報、アセスメントを行いケアマネジャー、職員で検討を行い計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存機能をしっかりと把握し、行える事は一緒に行っていく事で関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限の緩和から面会と外出が少頻度ではあるが可能となったのでその際、施設での様子や現在行っている支援をご報告し協力していただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限緩和により面会と外出が可能となった。施設からの連絡事項の際にも面会の呼びかけを行うようにしており、面会しやすい環境をつくれるようにしている。	面会が制限されていた間は、SNSで利用者の様子を発信するなど、馴染みの関係が切れないように努められ、制限の緩和により来訪者との面会や一緒にの外出が可能となったことで、馴染みの関係を広げることに力を入れようとされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動を一緒に行ったり、レクや外気浴で話題を提供し、共同生活を円滑に過ごせるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実績は無いが相談があった際には行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、職員共に少人数の為会話も多く関係性も構築できているので、日々の会話からもくみ取ることが出来それを共有している。自身からの発言が少ない方はこちらからアプローチし意向を引き出せるようにしている。	利用者ファーストが徹底され、1人ひとりの話を辛抱強く聴くことで信頼関係が築かれている。また、言葉や表情の変化、反応などをよく観察することで、その背景にある本音を汲み取り、職員間で共有することで、本人本位の検討に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族様から聞き取りを行っている。他施設や病院からの入所の際は関係者からも聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録を残し、職員間で申し送りも行い現状の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向を踏まえ、ケアマネジャー、職員でケア会議を行い検討し作成している。事前にモニタリング結果を提出してもらいより多くの意見が出るようにしている。	全職員によるモニタリングを基に、ケアマネジャーと職員によるケア会議が行われ、利用者や家族の意向と医師や看護師の意見も得、「業務日誌」にも目を通すことで、出席できない職員や管理者の意見も共有し、利用者本位の介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録を作成し、実施状況や気づきを記入している。申し送りも行い職員で情報を共有しケア会議での検討にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の代わりに受診を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に制限してしまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人とご家族様に確認を行っている。かかりつけの専門医への受診を行っている方もおり、その際は状態がわかるよう、施設での経過を記入した書面を渡している。	入居時に往診対応の医療機関が従来からのかかりつけ医かの選択をしていただき、日常的には往診医による健康管理が実施され、状況に応じて専門医の紹介が行われている。通院は、職員中心の支援がなされ、医師と家族間の情報伝達を含めて、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際に情報を伝えている。また、24時間電話対応も可能なので急変時等に連絡をし指示をいただいている。必要に応じ往診医への連絡も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には連携シートを活用しスムーズに連携できるようにしている。可能な場合は訪問看護とご家族様にも同行していただき情報共有を行っているようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取り、重度化に関して説明を行い、話し合いを行い個々の方針を決め共有している。状態によりご家族様、往診医、事業所での面談を行う機会を設けている。	入居時に利用者や家族に対して、重度化した場合に事業所で出来ることの説明がなされ、重篤化した場合は、家族の希望や医師の意見も参考に、看取りを含めた適切な選択をしていただける体制が作られている。また、職員の看取りの経験が、後輩の職員の育成に活かされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変時の対応についての研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定と年に一回の水害想定避難訓練を実施している。土砂災害警戒区域の為に、水害避難訓練の際は避難先である同一法人事業所へ実際に行き、かかった時間等の測定や課題の抽出を行っている。地域との協力体制は築けていない。	年2回の火災想定と年1回の水害想定訓練が行われている。土砂災害警戒区域であるため、同一町内で同一法人の別のグループホームへ実際に避難し、時間測定や課題の確認が行われるなど、実践的な訓練が積み重ねられている。	火災想定、水害想定訓練が行われ、同一法人の別のグループホームへ実際に避難し、時間測定や課題の確認などが行われています。コロナ禍の終息を見据えて、地域との協力体制の検討が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛けと対応を行うよう伝えてはいるが、場合により出来ていない職員もいる。身体拘束、高齢者虐待の研修にてスピーチロックに観点を当て改善に努めている。	利用者が見られたくないことや聞かれたくないことに対して、言葉使いを含め、十分注意が払われている。また、自分の目から見てどうか、他の職員から見てどうかの職員アンケートを実施し、自身の対応を見直すことで意識の向上を図るなど、各人の尊厳が守られた支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中や本人の仕草で汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や生活のリズムが崩れない範囲で希望にそって支援している。難しい希望の際は別の希望を聞いたり、代案を提案してみるなど状況により柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感の認識が難しい方にもご自身の好きな服を着てもらえるよう予め季節に合わないものは持ち帰ってもらいその中から選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症の時期以外は個々の残存機能を把握し、食材の皮むきや盛り付け、食器拭きを行っている。行事食も職員と一緒に作り、ご自身で作った物を召し上がって頂いている。	食材業者からの材料とレシピに基づいて、できる利用者には手伝ってもらい、職員が調理した食事が提供されている。週に1度は独自の料理作りが行われ、一緒に作ることも含めて楽しみとなっている。また、面会が解除され、家族との外食に出かけられることも可能となり楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、粥や刻み、ペースト食にしている。栄養については外部からの食材と献立を発注している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人に合った口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導や観察からの声掛け誘導を行っている。記録をつけそれぞれの排泄パターンの把握に努めている。本人の状態をケア会議で話し合い、リハビリパンツから布パンツへの移行の検討をし自立に向けた支援も行っている。	排泄パターンに基づいた声掛けや誘導を行うことで日中はトイレ排泄を原則とし、夜間は各自の状況に適した対応がなされている。自分で排泄する意識を大切にされた支援により、オムツ利用の方がリハビリパンツへ、リハビリパンツの方は布パンツへと改善された事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響は理解しており予防に努めている。重度の方は往診医の指示のもと服薬によるコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は職員都合となってしまっているが入浴希望の方は出来る限り対応している。拒否の強い方はタイミングや声掛けの職員を変更して対応し、入浴が行えた際には次に繋がるよう入浴の楽しみを少しでも多く感じてもらえるよう声かけを行うようにしている。	週2回を原則としつつも風呂は毎日沸かし、利用者の体調や希望などにより、融通を効かせた入浴が行われている。状況に応じて2人で対応し、全員が湯舟に浸かることを楽しんでいただけるように支援されている。また、拒否者には無理強いせずに、タイミングや人を変えるなどの工夫が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整備し安心して休息が取れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表をもとに用法、副作用について理解している。新しく追加された薬については開始日時と服用後の様子を記録し医療職に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族様等からの情報をもとにアセスメントを行い個々の能力を活かせるように声掛けや環境整備を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為施設主体の外出支援は思うよう行えていないがご家族様との外出の機会には少しではあるが増加している。	自然環境に恵まれた事業所であり、感染防止のための外出制限が若干緩和され、「天気が良いから外に出ないもったいない」との職員の呼びかけもあり、天候が許す限り、近隣の散歩や外気浴、ドライブなどが行われ、家族との面会時の外出も可能となっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは原則行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、ご本人の掛けたいときに連絡できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は落ち着いた色合いにしている。温度と湿度計も設置し快適に過ごせるようにしている。トイレや居室のネームプレートは手作りの物を用意して暖かみのあるものをと考えている。	緑溢れ、小鳥のさえずりも聞こえる環境の中にあり、採光や室温・湿度にも注意が払われた共用空間は、相性に配慮したテーブルやソファの配置が行われ、日常は食堂に集まることが多い利用者が会話やテレビ、音楽を楽しまれる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や本人の状態を職員間で話し合い気の合う利用者同士で過ごせるようにしている。玄関先にベンチを設置し、季節を感じながら過ごせるようにもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人居室にはご家族様と相談し使い慣れた家具や本人が好きなもの等を置いて居心地よく過ごしてもらおう務めている。ヒヤリハット、転倒があった際は環境整備を職員で検討し、ご家族様に了解を得て安全の確保も行っている。	折り紙による表札が付けられた居室は、使い慣れた家具や日用品、写真などが持ち込まれ、各人のペースで寛いでいただける部屋となっている。高齢化に伴い、安全面からの環境整備をご家族の了解を得て検討し、転倒防止などにも十分配慮された居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、生活動線に手すりを設けている。洗濯ラック等は高さ調節可能なものを用意し、本人にあった高さに来るので安全に家事活動ができるようになっている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム田舎の家

目標達成計画

作成日: 令和5年12月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	LINE連携をし、写真や定期連絡を行い気軽に相談やご意見を頂けるように努めているが、連携を取れていないご家族様もいる。連携していないご家族様とも良好な関係作りを行っていきたい。	LINE連携以外での情報発信。	社内会議を通し他SNSの活用を探っていく。	12ヶ月
2	35	火災、水害等の避難訓練を行っているが、有事に訓練通りの動きがとれるかわからない。職員の入れ替わりもあったので定期的な訓練以外にも対応方法について検討していかななくてはならない。	全職員が災害時に適切な対応が出来るようになる。	定期的な避難訓練の実施の他に災害に関する社内研修の実施。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。